

OB通信

鳳 翩

復刊第12号

= 2013年 8月 =

山口大学ワンダーフォーゲル部OB会

鳳翩会

目 次

はじめに	鳳翔会会長 武富敏夫	1
1	本部・支部連絡先	3
2	会長及び事務局からOB会員の皆さまへ	4
3	平成25年鳳翔会総会案内	6
4	会員近況	8
(1)	ささやかな夢 東京支部 秋山高弘	8
(2)	ワングルと生活習慣病 関西支部 岡田耕治	9
(3)	竜王山登山 山口支部 平野展康	10
(4)	近況報告 九州支部 前田孝志	12
5	各支部活動状況(平成24年11月～平成25年7月)	13
(1)	東京支部活動予定並びに事務局長交代について	
	東京支部 秋山高弘	13
(2)	関西支部活動実績並びに予定	14
(3)	山口支部	15
(4)	九州支部	15
	大船山とミヤマキリシマ観賞 九州支部 永沼嗣朗	15
	菜の花ウォーキング<『水神』の舞台を歩く>	
	九州支部 本園明信	16
6	同期会だより	19
(1)	「同期会便り」～45年卒～ 東京支部 乙咩敏臣	19
(2)	卒部以来の再会も 広島県 真田義子 山口支部 池富士清	20
(3)	49年卒業生OB会の報告 長崎県 古賀義人	22
(4)	拡大同期会便り 山口支部 徳田宏子	23
7	ワングル今昔	24
(1)	第5回(1968年)チンコロ姐ちゃんの萩一宇部80km耐久徒歩レース	
	東京支部 野村博	24
8	故藤下勝弘君を偲んで 昭和45年卒同期世話人武富敏夫、熊谷忠輝、大谷久美子、乙咩敏臣、久保博務、中洲泰治	25
9	現役活動報告	28
(1)	執行部近況報告	28
(2)	春合宿結果報告	29
(3)	平成25年度山口大学ワンダーフォーゲル部活動計画表	30
(4)	夏合宿コース紹介	31
10	編集後記	33

はじめに

鳳翔会会長 武富敏夫

大阪府立桜宮高校バスケットボール部の主将が体罰を受けた後に自殺した事や、柔道女子日本代表での暴力指導を選手15人が告発する等、昨今スポーツ界における社会問題がマスコミで大きく取り上げられています。これを受けて、文部科学省の有識者会議は、学校の運動部活動の指導で「勝つことのみを重視し、過剰な練習を強いないようにする」と勝利至上主義否定を明記したガイドラインをまとめ、体罰やパワハラなど許されない指導の具体例を示しています。

スポーツをする人にとっては、やる以上は良い記録を出したい、あるいは優勝したいという気持ちは誰にでもあると思います。そのために自助努力はもちろんのこと、良い指導者に指導してもらい、体力的・技術的向上をはかりたいということから、日々の厳しい練習にも耐えることができるのです。オリンピックにおいてもメダルをとるかそれ以外か、あるいは他の大会においても優勝するかしないかでは、いくら勝利至上主義を否定したとしても、世の中の評価はおのずから異なっていることは、誰でもわかっていることでしょう。練習のプロセスでは、厳しい指導が当然行われる訳ですが、いくらガイドラインを定めたとしても、現場においては指導と体罰との行為の範囲がはっきりとしない面があり、それは指導する側とされる側の当事者だけがわかるものだと思います。

私は高校時代に運動サークルに所属していましたが、退部する同級生に対し、先輩がしごきとも思えるほどの練習をさせたことを覚えています。しごきと言えば1965年(昭和40年)5月に、東京農業大学のワングル部の1年生に対し、上級生が殴る蹴るの暴行を加え、合宿から4日後にその1年生は亡くなったという「東京農業大学ワングル部死のしごき事件」を思い出します。

さて、今年のOB総会は関西支部主催で京都で行われます。詳しくは6ページの「平成25年鳳翔会総会案内」をご覧ください。OB総会は会員の皆さまが参加しやすいよう、開催地を変えて持ち回りでおこなっています。会員の皆さまは会員でない皆さまもお誘いのうえ、是非参加くださるようご案内いたします。

次に次期会長候補者選考の経緯についてご報告します。現会長は12月31日で任期満了となります。次期会長候補者選考にあたって、3月11日に鳳翔会会長等役員選出要領の規定に基づき、委員を任命し選考委員会を有期で組織しました。去る6月18日に会長等役員選考委員会を開催し、書面または電磁的方法による議決権行使者を含め、次期会長候補者の指名に全員異議なく賛成し承認可決しました。本件に関しては総会に付議しますので、よろしくご審議の程お願いします。

鳳翔会では、昨年からの会員数増加に向けて次のような対策を講じています。まず、第一にOB通信の発送範囲の拡大です。従来は会員のみでの発送としていましたが、昨年12月のOB通信は会員以外で住所が判明している皆さまへも発送し、「鳳翔会新規(再)加入ご案内」を同封し、鳳翔会への加入をお願いしてきました。今回のOB通信は328組のOBの皆さまに送付しますが、会員でない皆さま、この機会に是非入会されるようお願いいたします。

第二に鳳翔会と同期世話人との連携強化です。同期世話人については、平成23年のOB総会を契機に、会員相互の親睦を更に深めること等を目的として、その就任をお願いしてきていますが、鳳翔会からはその後何らアクションがないままとなっていました。4月に同期世話人への連絡、同期世話人未決定学年の就任要請、住所情報の提供のお願い等をおこない、鳳翔会と皆さまとの連携を少しでも深めるようにしました。その結果、同期世話人に承諾していただいた方が5名、住所情報

の提供のお願いによって、新たに住所が判明した OB も何人かおり、一定の成果をあげることができました。しかし、特に平成の卒業年については、同期世話人の未決定の学年や住所が判明していない OB の方も多く、それらを含め、引き続き住所情報の確認の努力をしてみたいと思います。

鳳翔会の存続も現役部員の活動があってこそだと思います。今年度も 8 名(本学 6 名、工学部 2 名、内女性 2 名)の新入部員を迎え、新体制が発足し夏合宿に向けて活動を開始したとのこと。一時の工学部の存続を危ぶむ懸念は消え、6 月 27 日現在、下記表のとおり本学 24 名(内女性 11 名)、工学部 16 名(内女性 2 名)、合計 40 名の部員数となりました。現役部員に対し、今後も温かいご支援をお願いします。

学 年	合 計			本 学			工 学 部		
	男 性	女 性	計	男 性	女 性	計	男 性	女 性	計
1 年	6	2	8	4	2	6	2	0	2
2 年	8	6	14	3	6	9	5	0	5
3 年	11	3	14	4	1	5	7	2	9
4 年	2	2	4	2	2	4	0	0	0
合 計	27	13	40	13	11	24	14	2	16

OB 通信は年 2 回発行していますが、会員参加型のものにしていただきたいと考えています。既にお気づきだと思いますが、昨年からは各支部の活動状況、同期会だより、ワングル今昔等をテーマとし、紙面の充実をはかるようにしました。会員の皆さまの寄稿によって会報の充実がはかれるのではないのでしょうか。会員の皆さま、是非寄稿をお願いします。また、会報に対するご意見等をお寄せください。皆さまのご意見等を入れて会報の質的充実に向けてまいります。

鳳翔会では、年 1 回の総会開催と年 2 回の OB 通信の発行等をおこない、会員の皆さまとの連携を保っていますが、やはり支部活動の活性化が一番重要であると考えています。各支部の活動の活性化によって、新たに鳳翔会へ入会される方が増えてくるのではないのでしょうか。各支部長はじめ支部会員の皆さま、是非、支部活動の活性化に努めて頂きたいと思います。

最後になりましたが、私事ですが過度のランニングとウォーキングで右股関節を痛めてしまい、無理をせず健康が一番だということを身にしみて感じる今日この頃です。暑さがまだまだ続きますが、OB の皆さま元気でお過ごしください。OB 総会では元気な姿でお会いしましょう。お待ちしております。

1 本部・支部連絡先

(本部)

OB会会長

武富 敏夫

(経・45卒)

OB会副会長

池富士 清

(農・47卒)

OB会事務局長

浦島 遼平

(東京支部)

支部長 城戸 賢嗣 (経・49卒)

副支部長 高田 哲生 (工・49卒)

事務局長 秋山 高弘 (経・53卒)

★4月1日付で、宮原龍作氏から秋山高弘氏に交代しました。

(関西支部)

支部長 池田 純 (工・51卒)

(山口支部)

支部長 池富士 清 (農・47卒)

本部OB会副会長と同じ

(九州支部)

名誉支部長 永沼 嗣朗 (経・39卒)

支部長 武富 敏夫 (経・45卒)

本部OB会会長と同じ

事務局長 龍 純二 (文理・50卒)

2 会長及び事務局からOB会員の皆さまへ

(1) OB会費の納入について

会費有効年を経過して会費未納の場合は自然脱会となりますので、会費の支払いはお忘なきようお願い申し上げます。脱会になりますと、以後OB通信の発送等OB会からの連絡が途絶えることとなりますのでご注意ください。ただし、当分の間はOB通信を発送します。

会費有効年は、皆さまの宛名書きに記載していますが、今一度会費有効年を確認され、もし、相違している場合は、会長または事務局までお問い合わせ願います。

【OB会費の納入状況についての問い合わせ先】

会長 武富 敏夫

事務局長 浦島 遼平

会費有効年に応じて、鳳翩会新規(再)加入のご案内、会費納入について(お願い)、お知らせ、入会申込書、会則、郵便局払込取扱票を同封しています。新規(再)加入及び入会を継続される場合は、お手数ですが、同封の郵便局払込取扱票にて下記へ納入くださいますようお願いいたします。同封文書は次のようになっていますのでご確認ください。

ア OB会費未納のため2011年までに会員資格を喪失された皆さま及び新規(再)加入の皆さま

鳳翩会新規(再)加入のご案内、入会申込書、会則、郵便局払込取扱票

新規(再)加入を希望される場合は、郵便局振込とともに、入会申込書を送付いただくか、必要事項を会長または、事務局までメールにてご連絡ください。

【送付先】

郵便番号 753-0841 住所 山口県山口市吉田1677-1 山口大学体育会内
宛先 山口大学ワンダーフォーゲル部

イ 会費有効年が2012年及び2013年の皆さま

会費納入について(お願い)、お知らせ

【振込先及び年会費金額】

口座記号番号 01530-0-16050

加入者 山口大学ワンダーフォーゲル部

個人会員年会費 2,000円 夫婦会員年会費 3,000円

※ 年会費は、複数年分を一括納入することもできます。一括納入の場合は振り込み金額を単年会費の複数年倍としてください。個人会員の場合、年会費を1,000円の端数で納入されないようお願いします。

新規に会費を納入される場合は、会費の有効年は納入年からとして取り扱わせていただきます。

(2) 記念誌頒布について

平成 23 年の創部 50 周年記念事業の一つとして、記念誌を発刊しております。現会員でない方で購入ご希望の方がいらっしゃいましたら、事務局までお申し出ください。一冊 1,000 円（送料込）で頒布いたします。

印刷部数に限りがありますので在庫がない場合は、ご容赦願います。

なお、新規会員になられた方には記念誌を同封していますのでご確認ください。

(3) ワッペンの配布について

新規会員になられた方にはワッペンを同封していますのでご確認ください。会員の皆さままで受領されていない場合は、会長までお申し出ください。

(4) OB通信への寄稿について

事務局では、皆さまからのOB通信の寄稿を常時受け付けています。OB通信への掲載を希望される場合は、事務局まで原稿を提出ください。なお、OB通信の発行の準備の都合上、原稿の提出期限は次のとおりお願いします。

8月発行分 7月中旬

12月発行分 11月中旬

(5) Y. U. W. Vホームページについて

山口大学ワンダーフォーゲル部のホームページをご紹介します。

Y. U. W. Vホームページ

<http://yamaguchiwv.yamagomori.com/>

(6) OB会ホームページ利用について

OB会のホームページの利用方法については、利用ガイドに掲載しています。ご不明な点は下記へお問い合わせください。

上記(5)のホームページ左の「リンク」をクリックすると移動したページに「山口大学ワンダーフォーゲル部OB会（鳳翽会）」という表記があります。ここをクリックすると「山口大学ワンダーフォーゲル部OB会（鳳翽会）」のホームページへ移動します。

(7) お悔やみ

H25. 1. 25 逝去 篠原（南洲）益子（昭和47年 農）

H25. 6. 3 逝去 藤下勝弘 （昭和45年 経済）

3 平成 25年鳳翽会総会案内

開催関西支部OB総会実行世話人会

拝啓 盛夏の候 会員皆様においては 益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて前年のOB総会でご報告した通り 2013 年度のOB総会を関西地区京都で開催いたします。
実施内容を以下についてご案内いたしますのでよろしくご参加のほどお願いします。

※出欠連絡 同封の返信用ハガキを 9 月 30 日までに投函下さい。

敬具

開催期日 平成 25 年 11 月 9 日 (土) ~ 10 日 (日)

1. フリー散策コース

① 散策コース

場所 世界遺産醍醐寺から上醍醐寺にいたるハイキングコース

貞観 16 年 (874 年) に空海の孫弟子・理源大師聖宝が創建。醍醐天皇の御願寺となり、天皇や貴族の庇護を受けて現在の上醍醐、下醍醐に広がる大伽藍が整備された。京都最古の木造建築である五重塔をはじめ国宝・重要文化財などの所蔵数はケタ違い。豊臣秀吉が「醍醐の花見」を開いた場所としても有名です。

② 集合 午前 11 時 地下鉄東西線京阪三条駅 2 番出口 (京阪三条駅は下記参照)

③ コース

地下鉄三条京阪駅→醍醐寺

◆三宝院・理性院→◆西大門→◆金堂→◆五重塔→◆弁天堂 (66m) →【上醍醐への林道→横嶺峠 (400m) →醍醐山 (454m)】往復 (コースは若干変更の可能性あり 16:00 までには帰着)

下醍醐周辺散策の楽チンコースも用意していますので、希望者は申し出てください。

④ 注意点

急坂、階段歩きにくい場所あります。足下はしっかり。雨具等もお願いします。

昼食の準備を各自でお願いします。

小銭 (電車賃 (280 円×2、入山料 600 円) 用意願います。

荷物は出発時、当日宿泊するいろは旅館に預けることができます。

2. 総会

① 場所 (前回と同じ) いろは旅館 (京都市東山区三条大橋東入る TEL 075-771-9181)

☆ 交通 ・JR 京都駅より地下鉄 御池より乗り換え東西線京阪三条駅下車 15 分
地下鉄 2 番出口を出てまっすぐ 1 分

② 総会予定 (17:00~17:30)

③ 懇親会予定 (18:00~20 時)

④ 会費

宿泊+宴会・朝食 17,000 円

宴会のみ 10,000 円

3. 連絡問い合わせ 池田 純 (携帯 080-5718-9654)

世界遺産「醍醐寺」です

昭和 50 年卒 関西支部 伊藤浩次

醍醐寺（上醍醐）は貞観 16 年（874 年）弘法大師「空海」の孫弟子「聖宝」が清水がこんこんと湧く（醍醐水）当地を聖地と定め開かれました。

醍醐天皇は菅原道真が流刑となった時の天皇でその道真の怨霊を恐れていたのですが、皇太子保明親王の死に至り醍醐寺を頼ることになります。その信仰の甲斐あって？皇后藤原隠子との間に、朱雀天皇、村上天皇と子宝に恵まれ醍醐寺は天皇の信頼を得る一方、藤原家は摂関家繁栄の礎を築くことになりました。

その後高貴な女性为上醍醐まで参詣は叶わぬとのことで、山の下に立派な寺院をつくろうと下醍醐が整備されます。

時代は降って応仁の乱ですっかり荒廃した下醍醐ですが、豊臣秀吉は尾張の百姓出身の身ではあり得なかった関白太政大臣に登りつめるのですが、この裏には五摂関家の一つ二条家の陰の功労あったことで、二条家出身の醍醐寺座主義演は厚遇を受けることになります。

朝鮮出兵で行き詰った秀吉は戦勝祈願を醍醐寺で行いますが、その際、義演は醍醐寺の再興を願い出ます。この再興プランの中心に醍醐の花見が企画されました。

秀吉は花見の二ヵ月後に病となり、その年の八月亡くなってしまいますが、醍醐寺の再興は淀君、秀頼に引き継がれました。



清瀧宮本殿



紅葉の西大門〔仁王門〕
方も下醍醐だけでも見所満載。この機会に是非行って見ましょう。

醍醐寺は明治の寺院にとっての困難な時期も宝物等の一つも売ることなく乗り越え、今日に至っています。（国宝の建築物、宝物等多数あり、さらに数多くの貴重な古文書の整理にもまだまだ時間がかかるとのこと）

上醍醐は下醍醐から 1 時間の山道ですが、通常の京都観光ではなかなか行けない所です。

上醍醐までは「チョット・・・」という

4 会 員 近 況

(1) 【ささやかな夢】

昭和53年卒 東京支部 秋山高弘

ハヶ岳の麓にあるゴルフ場に行きだして、もう15年以上経つ。家内の祖父が持っていた会員権を譲り受けたのがきっかけだ。

当時は神戸に住んでいたので、朝3時に起きて名神、中央道と高速道路を乗り継いでやっと9時過ぎにゴルフ場に着く。渋滞の名所、天王山、栗東、小牧を抜け、中央道に入ってやっと一息つく、そこが朝6時半。さらに伊那谷をさかのぼり小淵沢で高速道路を下りて、ハヶ岳の麓を巻く地道を約一時間走って到着だ。年に一度か二度行くのがやっとだった。

東京に転居してからは、中央道でも関越道を使っても、約3時間で着く。なんと近いんだらうと感激した。ゴルフ場は冬は雪でクローズの為、春から秋にかけ7か月間しか営業しない。シーズン中は天候を見ながら月に一度ぐらいの割合で行くようにしている。

このゴルフ場の魅力は、なんといってもハヶ岳連峰の大パノラマだ。白樺林でセパレートされた緑の芝の上を、高原の涼風に吹かれてプレーすると、何とも言えぬ幸福感に包まれる。真夏でも気温は約20℃、会員皆が夏にゴルフできるのがここの魅力と言う。高原の薄い空気のせいで、ボールも1クラブ以上よく飛ぶ(らしい)。

ゴルフ場のもう一つの魅力は、併設されたロッジでの生活だ。古ぼけてはいるが、宿泊費が安く、清潔なのが何よりだ。ラウンジは食堂のようになっている、宿泊者は食事やつまみを持ち寄り、持ってきた好きな酒を飲む。そのうち仲間内をはみ出し、隣同士くっついて大宴会となる。グループも多いが、特徴は夫婦二人で来ている人が多いことだ。皆顔なじみの仲間となっている。

閑古鳥が鳴いているこのゴルフ場では、ツーサムでもなんでもOK。夫婦で来た人は二人だけで回ることが多い。家内も初めはカートの助手席に乗って、山菜や花を採りながら付き合ってくれていたが、それだけじゃもったいないと50歳を過ぎてゴルフをやり始めた。今ではどうかすると私をオーバードライブするパワーヒッターだ。だが夫婦でやるゴルフほど緊張感のないものはない。私がなかなか100を切れないのはそのせいに違いない。



「ゴルフ場から見たハヶ岳連峰」

最近、このゴルフ場のオープン・クローズで季節の移り変わりを強く感じている。11月に、「あー今年もハヶ岳終わっちゃうのね。」とつぶやいたご婦人がいた。翌年桜のシーズンを迎えるころ、ゴルフ場から開場の予告案内が来る。今年も始まったなと、何か浮き浮きしてくる。

その年初めてのゴルフ場では、「お久しぶりですね。今年もよろしく申し上げます。」と、挨拶を交わしあう。

ゴルフ場は今年開業 50 周年を迎えた。さらに 50 年たった 100 周年、このゴルフ場はどうなっているのだろうか。この大自然に囲まれて、その時まで残っているのだろうか。

昔このゴルフ場を愛してやまなかった祖父がいたように、私たちの子や孫がこの地を愛し、高原のゴルフを楽しんでくれていたらと思う。

私ども夫婦のささやかな夢である。

(2)【ワングルと生活習慣病】

昭和 43 年卒 関西支部 岡田耕治

COPD（慢性閉塞性肺疾患）と診断されたのが 2 年前。WHO の統計では死亡原因第 4 位とされている割には日本では知名度の低い病気！肺気腫と気管支喘息の合併した病気というのが一般的説明です。

更に分かり易く表現すれば「タバコ病」です。症状はひどい咳とそれに伴う痰。喫煙歴があれば禁煙後 10 年 20 年でも発病すること。進捗度は 5 段階にされており 4 段階の人は酸素ボンベの持ち歩きが必要で 5 段階は入院必要で辞世の句を考えないといけならしい。斯く申し上げる小生は 1.5 段階で軽い段階です。

一番の特効薬は禁煙。体に染み付いた脂の臭いを産まれてくる初孫に嗅がせたくなく 40 年続いた喫煙に終止符を打って暫くしての COPD の宣告。

宣告されて 1 年後ぐらいに今度は糖尿病であることが判明。吹田市役所主催の産業祭。片隅の健康コーナーで血糖値検査。恐る恐る計って貰った。小さな計器に数値は表れてなく「H」と出た。この計器俺のことを「H」であることをよくも嗅ぎつけたものだと思心していた。

係りの女性が慌てていた。この H は高い（ハイ）の意味とのこと。血糖値が高過ぎて測定不能を表しているとのこと。それで慌てた対応。性能の良い計器を持ち出し再び計ると鳳凰山の高さより少しばかり低い数値が示されていた。

4 人の人から囲まれ大丈夫ですか？歩けます？目眩は？と心配に溢れた優しい言葉を投げ掛けられた。「今日は土曜日なので病院に行けませんから家に帰って寝て様子をみて下さい。一人で帰れます？月曜日には必ず病院に行ってください！！」何のことが解らないながら異常な状態におかれていることは解った。指示に従い知り合いの病院に行くと再度血液検査。2 日後に検査結果を聞きに行くと既に大きな病院の入院予約がされていた。アレヨアレヨと言う間に入院に。入院期間 10 日の約束。

普通の病気であれば「検査入院」が多く使われているけど、何故だか「教育入院」の名の下での入院。10 年以上続けていたアンパン 4ヶ&ピターチョコレート&スライスチーズの間食を止めさせられ 1 日 1, 440 カロリーの食事に慣れさせるのが教育入院！ちょっと大きい弁当ならば 1, 500 カロリーも珍しくありません。弁当 1 つが 1 日分の食事になる勘定で、食事が終わった瞬間に空腹を覚えるほどの食事でした。空腹に過ぎて眠れない。仕方なくお茶をガブガブ飲んで紛らわす毎日。

当初の 1 週間は検査ばかり。肝臓・膵臓・心臓・血管・眼球・諸々の神経等々。幸いなことに特段に悪い箇所は出てこなかった。心臓の検査は 3 回行われた。6 人部屋の全員が糖尿病患者。彼等に「心臓の検査、何回受けた？」と聞くと全員が 1 回という答だった。

3 回目の検査の前は流石に思い悩んで心臓手術をシミュレートして落ち込んでいました。3 回目の検査が終わった時に検査係りに「余程悪いのですか？」と聞いたらその答は！「実は検査ミスで 2 回やったんです。ゴメンナサイ。全くの健康状態でした。」ホーッとすると同時に複雑な気持ちにも、...

糖尿病の治療は①食事療法②適度な運動③薬の服用とされています。1 日最低 30 分の歩行が課せられていた。病院は川縁に建っており堤防沿いは格好なプロムナード。雨天の日は院内を闊歩。闊歩には威張って歩くの意もありますが「ゆったりと歩く」が第一義語とされています。為念。その病院は 8 階建てで、8 階に上がりワンフロアを 1 周し、次に階段で 7 階に降りる。1 階に辿り着

くと30分程度になりました。これを3セット×1時間30分。

小生の部屋は7階で100人の入院患者で満員。そして殆どが糖尿病。雨天に廊下を闊歩すれば渋滞になるハズですが2人から3人程度しか歩いていませんでした。多分、「歩く」ことへの抵抗感を覚える人が多かったと推測しています。

食事療法+過度と思える適度な運動?+薬服用で血糖値は非常な速度で低下しました。10日を前にして退院許可が出ましたが、食事療法に躰が慣れておらずリバウンドする可能性が高いと思い3週間の入院生活を希望して受け容れて貰いました。

退院してデジタル計量器を求め徹底した食事療法に挑戦しました。カロリーが少ないので量制限が緩やかな海草・キノコ・コンニャクを大量に食べ空腹対策としました。

その結果として体重は8kg減。ガリガリになっていく己の姿を観るのは辛いものがありました。退院して6ヶ月経過したのが12月下旬。担当医からカロリー制限緩和の指示頂戴!退院後は歩きを辞めていました。入院中は僅かなカロリーでも殆ど寝ている状態なので歩きもできました。

退院して日常の生活+別途歩行をすれば、躰がもたないと判断したからです。カロリー制限の緩和と同時に歩きを再開。1日最低1万歩を自主的に課しました。今では体重も5kg増えて元の体重も目の前となりました。

先月、COPDの検査を受けに行きました。担当医が肺機能検査の表を見ながら「おかしい」と一言。諸々の数値が良くなっているとのこと。薬も飲まず特段の治療もしないで70目前の人間が好転することはないと不思議顔。「1日最低でも1万歩は歩いています」と告げると「それです!」と大きな声。歩きは、肺機能にとって最高の薬とのこと。

COPD&糖尿病の共通点。①一旦罹ると完治しない。②どちらも生活習慣病であること。そして③適度な歩きが特効薬となること!生活習慣病は歴史の浅い言葉です。難しいことは解りませんが「成人病」の代わりに呼称と言って良いかと思えます。

COPDも10年ぐらいの歴史だと思います。COPDは肺気腫や喘息に比べ何ともトレンドいなネーミングです。「あの野郎、罹る病気までお洒落だネ」と噂になっているのではないかと秘かに案ずる阿呆な男です。。

もし学生時代にWVに属していなかったら、1日最低1万歩でなく、1,000歩を目標にしていたと思います。学生時代に「ロード」なる行進で1日に30kmも40kmも歩いた経験を持つ者としては、1日30分や1日1万歩は物足りない程のノルマです。

1日1,000歩の歩きでは、血糖値は下がらず肺機能も悪化していたと思います。卒業後半世紀を経て、おかしなことでWVに感謝する次第です。

1日15,000歩が何日も続くと足首や膝が痛くなり大変です。担当医は12,000歩が適正歩数としています。又、ストレッチをしないと、その内に歩けなくなるぞと脅かされてもいます。遅きの感はありますが、歩きをきっかけにアンチ・エイジングに取り組んでいる毎日です。

(3)【竜王山登山】

昭和59年卒 山口支部 平野展康

6月最後の土曜日。下関に向かって山口の自宅を出発した。約1年ぶりの山登り。数年前から毎年1回は自宅近傍の山に登ってきた。今度は少し遠出しようかと思いながらも、なかなか踏ん切りがつかないでいたところに、近況報告の依頼が舞い込んできたのだ。丁度いいきっかけになった。

目指すのは竜王山。25年ほど前、下関に住んでいた頃に一度登ったことのある山だ。「響灘と北九州市が望める見晴らしのいい山。」という記憶がかすかに残る。調べてみると、山名の竜王は雲や雨を起こす神通力を持つ竜神の王のことで、西麓の吉見にある龍王神社では雨乞いの神事が行われるらしい。梅雨の中休みの曇り空。竜神さまの気が変わらないことを祈る。

登山ルートはいくつかあるが今回は深坂ため池コースにした。吉見に実家がある職場の同僚から、「登山口の深坂茶屋には広めの駐車場がある。」という情報を得たからだ。

はたして深坂茶屋に到着すると確かに広い駐車場があった。しかしほとんど満車状態。結構人気

のある山のような。なんとか他の車の邪魔にならないように枠外に駐車して、身支度を開始した。

山頂までは3.6km。深坂茶屋(標高90m)→稜線鞍部(標高210m)→牝鋤先山(493.5m)→鋤先山(583m)→竜王山(613.9m)。1時間30分から2時間程度で山頂にたどり着く予定だ。

深坂茶屋から県道を横断して深坂ため池側に渡り、最初に竜王山3.6kmの道標を確認。ため池を右に見ながら整備された遊歩道を進んでいくと分岐点に竜王山3kmの道標を発見。ここまでで10分。

分岐点を左にとると稜線鞍部に向けて本格的な登り道が始まりだ。ほどなくして階段が現れる。延々と続く階段。沢沿いに殆ど直登に近い感じで続く。しかし、これは階段地獄の序章に過ぎなかった。

梅雨時期のせいか湿度が高い。汗が噴き出し、おまけにブトがまつわりつく。先の分岐から10分で稜線鞍部に到着。ここから竜王山までは残り2.6kmだ。

しばらく整備された尾根道を進んで行くと再び階段道が始まった。目の前に天まで続くかと思うような階段が立ちふさがり、心が折れそうになる。太ももに乳酸がたまり、息が上がる。一步一步に時間がかかる。なかなか高度が稼げない。

登山開始から55分でやっと牝鋤先山に到着。展望はよくない。水分補給して、次の鋤先山に向かう。

一旦急な階段を下って、再び登り返していく。これもまた延々と気が遠くなりそうな階段である。よくもまあ整備したものだと呆れてしまう。

それにしても誰にも出会わない。「ここで倒れたらどうなるんだろう。」階段に体力を奪われ、少しナーバスになった。

「水分補給して熱中症に注意。」「無理せずゆっくり。」自分に言い聞かせながら登っていると、5、6人のパーティが下山してきた。なんとなく少し安心。

息も絶え絶えになりながらようやく鋤先山に到着。ここも展望はよくない。早々に目的地の竜王山に向かう。再び一気に急な階段道の坂道を下った後、急な階段道を登り返す。

果てしなく続く階段。これほどの階段道を経験したことがあったらどうか。とにかく半端ない。ゆっくり、ゆっくり高度を上げて行き、疲労がピークに達したころ、ようやく竜王山山頂に到着した。登山開始から1時間30分。行程の4分の3は急な



階段道だったのではないかと思う。

普段、フィットネスクラブに通い、筋トレマシンやランニングマシンでのトレーニングで体力には自信があったのだが、これほど疲労したのは久しぶりだ。

頂上は360度の大パノラマ。あいにくの曇り空で湿度も高いせいか遠くは霞んでいたが、響灘がぼんやりと見渡せた。晴れていれば素晴らしい景色が広がるに違いない。少し残念。

山頂には、男性の登山客が二名、それからすぐに吉見方面から女子大生らしき二人連れが上がってきた。その後も、深坂方面から、一人、また一人と4名が上がってきた。やはり人気のある山なのだ。

50代半ば位の女性と話すと、夏に北アルプスに行く計画で「ここは階段が多いからトレーニングに丁度いい」とのこと。そりゃ正解。恐るべし熟女パワー。

ゆっくり1時間ほど休憩して、下山開始。今度は延々と続く下りの階段。息は上がらないが、膝への負担は相当なものだ。結局、1時間ほどで無事登山口に帰り着いた。竜神の王に感謝。

そして、3日後、太ももの筋肉痛はまだ続いている……

(4)【近況報告】

昭和59年卒 九州支部 前田孝志

大学を卒業して29年になります。転居を繰り返しながら、現在は福岡市に居住しています。特段の趣味もないことから、大分県の由布岳など気の向くままマイペースで山登りを続けています。また、最近では、学生時代に登った山々を懐かしく思い、NHK BS の日本百名山の放映を楽しみにしています。

OB 会へ参加するきっかけとなったのは、一昨年(2011年)の創部50周年総会に出席した際に、後輩の天野君から九州支部へのお誘いがあり、以後近郊の山登りや会合へ参加させていただいています。九州支部のメンバーは多士済々で、多くの先輩方に混じって楽しく活動に参加させていただいております。

今年度(25年)は、2月に福岡県の「難所ヶ滝」へ登りました。厳冬期といえども、九州で滝が凍った氷壁を見ることができるとは、予想外の出来事でした。JRを乗り継いで、宇美駅からタクシーで登山口まで行き、5名で登山開始。(永沼先輩は早朝の雪山撮影のため先行して途中で合流)流石に冬季の人気コースなので、山用品ショップ登山ツアーの団体客や一般登山客も多く、渋滞箇所を廻りながらも1時間程度で「難所ヶ滝」に到着しました。タクシーの運転手からは、暖かな日が数日続いたことから氷壁は少し小さくなっているとのことでしたが、初めて見る氷の滝は壮観でした。滝つぼ辺りは、登山客の撮影でごった返すほどで、危うく氷に足をとられそうになりそうでした。滝を後にして稜線までの道は雪道、軽アイゼンを装着し、静かな雑木林の中、汗をか



(左から) 前田 北原 前原 龍 永沼
きながら登りようやく稜線に出ました。そこからは、宝満山の頂を目指し、皆快適に歩みを進めま

した。山頂の手前では梯子や鎖場もありましたが何とか到着。宝満山山頂で昼食後下山。登山口にある「都久志の湯」で汗を流し、帰路に着きました。



また、4月には、佐賀県にある「黒髪山」に登りました。標高518メートルの低山ですが、岩場もあり、山頂からの眺めも申し分なく、なかなか登り甲斐のある山でした。こちらでも下山後に武雄温泉に入湯、アルコールはありませんでした（笑）が、快適な山行でした。

（左） 乳待坊展望台から黒髪山を望む

今後も、九州内の名山や温泉に浸ることを楽しみにしながら、九州支部の活動に参加したいと思います。

6 各支部活動状況(平成24年11月～平成25年7月)

(1)【東京支部活動予定並びに事務局長交代について】

東京支部 事務局長 秋山高弘

今年4月より宮原前事務局長の後任を務めさせていただくことになりました秋山高弘です。本部ワンダーフォーゲル部を昭和53年3月に卒業しました。経済学部そして福岡県出身です。

福岡には秋山邦雄大先輩がいらっしゃいますので時々混乱される方もいらっしゃるようですが、東京に弟分がいると覚えていただくと幸いです。

東京支部には茲許7～8年程懇親会や山登りに参加させていただいていますが、出席メンバーの中で私と同期の真島君とが最年少という状況が続いています。

事務局として、東京支部の皆さんが集まる場を提供し続けることが最大のミッションと考えますが、併せ我々やその下の世代の参加者を増やし、支部としての活動の層を厚くしていきたいと考えています。

今後は定期的に、懇親会、山行、支部会員の動向等、メールにて案内する予定ですので、関東在住で東京支部事務局からのメールを受け取っていない方々は、ご一報いただきますようこの場をお借りしてお願いいたします。

当面の予定として、東京支部では9月7日（土）17時より懇親会（暑気払い）を企画しています。初めての方、あるいは東京出張中・旅行中の方の飛び入りも大歓迎いたしますので、奮ってご参加ください。

城戸支部長のもと、精一杯東京支部を盛り立てていく所存ですので、何卒宜しく願いいたします。

【活動実績並びに予定】

（実施済み）

・1月26日（土） 新年会 （飯田橋 京町屋） 参加者20名

（今後の予定）

- ・ 9月7日（土） 17時～ （銀座 かなえ） 東京支部以外の方は問合せください
- ・ 10月～11月 日帰り山行 計画中
- ・ 来年1月～2月 新年会 予定

（2）【関西支部活動実績並びに予定】

関西支部 支部長 池田 純

（実施済み）

- ・ 2月8日（金） 新年会 （淀屋橋 小松屋） 参加者9名
- ・ 6月1日（土）～2日 三草山、長谷棚田散策 計画のみ（参加者少なく中止）
- ・ 6月14日（金） 幹事会 and 懇親会 参加者8名
- ・ 6月15日～7月25日

各自で総会で計画された散策コースのフリー下見 ①醍醐寺②鴨川べり散策

① の醍醐寺コース散策下見は伊藤氏の報告にあります。

② 鴨川べり散策

鴨川を三条から上流に向かって散策するコースです。違う角度からの京都散策で趣のあるコースです。今年度総会のフリー散策コースからは外れましたが時間があればめぐりたいコースです。



←鴨川べり散策コース。世界遺産下賀茂神社付近

- ・ 7月26日（金） 幹事会 and 懇親会 参加者10名



←いつもの淀屋橋小松屋で幹事会

（今後の予定）

- ・ 9月7日（土） 11時～ 京阪三条駅 2番出口集合
総会散策コース 最終下見
- ・ 来年1月～2月 新年会 予定

(3) 【山口支部】

山口支部 支部長 池富士清

山口支部は、年数回の交流会等を目標としていますが、本年のこれまでの活動は次の1回のみとなっています。

H25.1.18 山口支部交流会 現役追いコンに途中合流 お花茶屋 11名参加

例年、追いコンに合流し、卒部生の激励と現役生との交流を行っています。ちなみに、今年卒部生は、鳳翔会事務局長の役を立派に果たしてくれた農学部の馬屋原範聡君一人でした。

現役部員数も増え、さらに山口県立大学、宇部高専のワンゲル部員も駆けつけてくれ、大変賑やかな追いコンとなっていました。

後半に集中して、現役部員との交流、日帰りトレッキング、懇親会等の活動が出来たらと考えています。

(4) 【九州支部】

九州支部 支部長 武富敏夫

九州支部では、今年も新年会をはじめとして活動を開始しました。期間中の支部活動は次のとおりです。

H24.12.01	忘年会兼総会打ち上げ	博多表邸	参加人員	11名
H25.01.26	新年会	大名つつじ庵	参加人員	8名
H25.02.09	日帰り山行	難所ヶ滝～宝満山	参加人員	6名
H25.03.21	菜の花ウォーキング	小説「水神」の舞台	参加人員	4名
H25.03.30	花見会	大名つつじ庵	参加人員	6名
H25.04.13	日帰り山行	黒髪山	参加人員	8名
H25.06.12～13	宿泊山行	久住（大船山）	参加人員	3名
H25.07.20	暑気払い	大名つつじ庵	参加人員	12名

【大船山とミヤマキリシマ観賞】

昭和39年卒 九州支部 永沼嗣朗

① 参加者 (九州支部) 永沼、前原、岩本 (関西支部) 堺原 (熊本県) 大久保

② 行程

12日 曇り時々小雨 長者が原(10:30)ー雨ヶ池ー坊がツル法華院温泉山荘(15:00)

13日 曇り時々小雨 坊がツル法華院温泉山荘(7:30)ー一段原ー大船山ー大戸越ー坊がツルー雨ヶ池 ー長者が原(15:30)

③ 特記事項

一段原、大船山のミヤマキリシマは開花のピークが過ぎており、また、黄色の毛虫が多量に発生し喰われていた。北大船山のミヤマキリシマは数日ピークを過ぎていたが、素晴らしい大群落を観賞できた。雨ヶ池ルートと大戸越から坊がツルまでの登山道のぬかるみがひどく、スパッツが必要である。

坊がツル法華院温泉山荘(個室8畳と6畳2部屋)1泊2食8,500円+登山弁当700円

【菜の花ウォーキング <『水神』の舞台を歩く>】

昭和50年卒 九州支部 本園明信

日時 平成25年3月21日(木) 10時 JR筑後吉井駅集合

場所 JR筑後吉井駅～大石堰

参加者 秋山 武富 龍 本園

コースタイム JR筑後吉井駅(9:56)→高田村(五庄屋の一人、山下助左衛門)→原鶴大橋・
 昼食(12:50 13:15)→長野水神社(13:25)→弓立神社(14:20 14:30)→大石
 堰(14:46 14:57)→清乃屋入湯(15:20 16:10) 杷木バスセンター

歩数 27,400歩

天候 快晴

気温と風については以下の通り

時	気温	風速(m/s)	風向	日照(h)
10	10.4	1.3	南西	1.0
12	13.3	0.8	南南東	1.0
14	14.6	2.3	西	1.0
16	13.9	3.2	西北西	1.0
最高気温 14.9 (15時)				(朝倉地点)

地図(2万5千分の1) 田主丸 吉井 草野 千足

西鉄宮の陣駅 8時41分発の電車に乗る。同じ電車に乗っていた龍君と当日の予定を確認する。西鉄久留米駅からバスでJR久留米大学前駅に向かう。久留米大学は卒業式のようにであった。卒業式にふさわしい春の陽気である。JR久留米大学前駅9時24分発の列車に乗る。福岡からすでに乗車していた秋山さん、武富さんと一緒になる。武富さんより、「はい、ハンディ。」と言って自宅で採れた高菜の漬物を渡された。キャンディではないが、おいしいハンディである。私は用意していた地図と資料を渡す。今年は例年に比べて桜の開花が1週間ほど早い。前日一分咲きの桜を見てそれを実感していたが、筑後吉井駅に着くと、駅前の桜はほぼ満開に近い状態。温暖なところなのである。行き方はいろいろあるが、五庄屋の村を回って大石堰に向かうコースにする。うきは市吉井町が舞台なので五庄屋の案内が出て良さそうであるが、見つけることができない。かろうじて



秋山 武富 龍

案内板の中に小さく「五庄屋遺跡」と確認することができた。桜の前で写真を撮って出発した。

うらかな春の日、風もなく人もあまり多くない吉井の町をのんびり歩いていく。写真は菜の花の咲く道である。今回の計画は九州支部新年会で秋山さんの「菜の花の咲いている暖かい時に吉井町から筑後川辺りを歩いてみよう。」という提案から始まった。折しも新田次郎文学賞を受賞した帯木蓬生著『水神』の文庫が 昨年6月新潮社から発行されている。文庫の緑色の帯には「筑後川の恵みで、村人たちを潤

したい～庄屋はその大事業に全身全霊で臨んだ」(上巻)「故郷・九州の大地に捧げられた熱涙巨編」(下巻)とある。うきは市吉井町は筑後川の中流に位置していて、『水神』の舞台にもなっている。龍君からの九州支部会員へのメールには『『水神』を是非読んで下さい。』と記されていた。



秋山 地元の方

右に川のように見えるのが溝渠である。

その後、菅村、今竹村、夏梅村と歩いた。写真はこの時の様子である。いかにものどかな春の雰囲気伝わってくる。実に気持ち良かった。歩いても標識らしきものとして何もない時に、五庄屋の一人「栗林次兵衛之墓」の案内が目に入った。小さいが、五庄屋に関するものとしては初めてのものであった。それをたよりに栗林次兵衛の墓に行ってお参りをした。小説中の人物が実在したことに私は多少、気分が高揚したようである。

五庄屋の村の一つ、清宗村から回ったが、早速目にした溝渠の幅の広さに先人の苦勞が偲ばれた。4m近い。ちょっとした川である。村ごとで掘っていたと考えれば、これは一大土木事業である。かなりまとまった人力を必要とする。小説では米作りに影響の出ない冬から春にかけて一気にやりとげたというのであるから、今のような重機のない江戸時代、たいへんなことであつたらう。一方これだけの多くの水量が田畑を潤せば、農民たちの喜びはひとしおであつたにちがいない。写真は秋山さんが地元の方に話しかけているところ。



武富 龍 秋山

最後に訪ねたのが高田村。大堰と溝渠を造るという大事業の発案者であり推進者であった主人公、山下助左衛門の村である。



秋山 龍

山下助左衛門の墓の石標があつたので、龍君と秋山さんに手を置いてもらって撮影した。地元の方に五庄屋の一人、山下助左衛門のことを尋ねると、ご子孫は久留米に移っているということであつた。墓の場所を教えてくれたのは年配の女性であつたが、私たちが『『水神』の舞台を訪ねている。』と話すと、「自分も帯木蓬生さんの講演を聴いた。」と嬉しそうに話を下さった。墓は耳納連山がよく見える見通しの良いところにあつたが、江南原という地名を持つこの一帯が高くなって水が流れ込みにくいことを改めて実感した。お参りをした高田村を後にした。

高田村から筑後川の南岸に沿って歩いた。筑後川の水を

桶でくみ上げる「打桶」が小説に出てくるが、本当に苛酷なものであったろう。対岸にある原鶴温泉を見ながら昼食をとった。鷺が筑後川に降り立って動かない姿も美しい。

長野水神社は溝渠と筑後川の支流である隈上川が合流する地点近くにあつて、五庄屋を神として祀っている。神社の由来を紹介すると、「水道を築き、二千数百町歩の美田を得たので明治十五年創立した。・・・崇敬者 約八千世帯。」とあつた。五庄屋の神恩に感謝するために毎年田植えが終わると、集落単位でお礼のお祭りが現在も続けられているとのことである。村人の篤い信仰心が感じられた。

次に向かったのは弓立神社である。私たちは小説の中に登場する久留米藩士の碑文を期待して歩いた。嘆願書を書いて領民のために命を差し出した久留米藩士菊竹源三衛門の碑文があるはずだ。15両で建てたことになっていると。ところが、神社に着いて境内を見て回ったが、それらしいのが見当たらない。たまりかねて武富さんが近くの家に聞きに行くと、「あれは小説の中のことです。」と言われたのであつた。私たちはちょっと拍子抜けしたが、「作家さんのこしらえものか。」と言って納得するしかなかつた。

最終目的地、大石堰に着いたのは15時近くになっていたが、ほぼ予定通りであつた。展望の良いところにあつた。音を立てて豊かな水が流れている。水道の横には桜が咲いている。写真（右下）にあるように、五庄屋遺跡と書かれた看板が立っているが、人は誰も来ていない。写真（左下）が目的地、大石堰である。五庄屋時代の堰は決壊して、現在は新しいものに建て替えられたが、周辺は往事の雰囲気を残している。一度訪ねてみてはいかがか。



大石堰



龍 武富 秋山

その後、筑後川温泉「清乃屋」の天然温泉（500円）に入って疲れた身体をいやした。痛む足をおさえながら杷木バスセンター16時25分発のバスに乗った。好天気に恵まれたことに、そしてこの日に企画、設定していただいた先輩方と龍君に感謝して。

歩数の情報は龍君、コースタイムは武富さんから提供いただいた。気温、風については気象庁HPによつた。あまりの好天気を感じてもらいたく気温と風を掲載したが、数字ではぴんどこないかもしれない。

6 同期会だより

(1)【「同期会便り」～45年卒～】

昭和45年卒 東京支部 乙咩敏臣

今年で4回目のS45年卒同期会は平成25年5月24日から2日間、安芸の宮島で開催されました。今回の参加者は、武富氏（幹事、現 OB 会長）、河内氏（今回の企画を担当、熊谷氏、久保氏、銭広氏（初参加）、戸村氏、野村氏、藤原氏、黒小（旧姓山手）さん、妹尾（旧姓内田）さん、箱田（旧姓長谷）さん、増田（旧姓下松）さん、そして地元広島在住の前田氏（47年工学部卒）が特別に参加し、小生を含めて合計14人でした。

宮島は海中に色鮮やかに浮かぶ朱塗りの大鳥居の厳島神社、そしてそのご神体ともあがめられる弥山（標高535m）で有名な島。文化的景観を成している点を高く評価されて世界文化遺産に登録されています。また弥山は仏教の世界観の中心にそびえる聖なる山、須弥山（しゅみせん）を模した山で空海が9世紀初めに山上で修行し開基したという、歴史の重みを感じさせる山です。この聖なる地へ元ワングルの善男善女が登山しました。

24日11時過ぎ、JRのフェリーは宮島の大鳥居の正面に回るというサービス付きとの武富氏の勧めに従ってこれに乗船した善男は海上から参拝してから宮島へ上陸。登山の身支度の為に国民宿舎（みやじま杜の宿）へ。ちょうど干潮時で浜辺を横切って大鳥居へ接近できる機会に恵まれたスタートでした。

杜の宿で合流した登山組11名は12時半過ぎに河内氏と前田氏の先導で弥山へ出発しました。河内氏曰く、元ワングルの皆さんに失礼にならないよう登りが厳しい大聖院コースを選択したとのこと。弥山は空海が山岳修行の場であり、また、いろいろな名前のついた滝や、大岩、溪谷など絶景の風景、苔むした石仏や祠、一丁（約109米）毎の石柱など数百年の歴史を感じながら登っていきました。急坂を1時間ほど登って四阿展望台に到着。きらきら光る瀬戸内海を見下ろしての昼食。引き続き山頂目指して登る途中、前田氏が防災のため苦労して設計し施工したという小石で築いた砂防ダム、世界遺産の保護に貢献しているようです。さらに登り続けて山頂に15時過ぎに到着。全方位瀬戸内海を見下ろせる山頂でしばしの休憩。下りは大元谷コースへ。「登りよりもきつい」急な道を下って16時半過ぎに足を引きずりながらも全員無事に杜の宿に到着できました。



夜の懇親会。初参加の銭広氏の音頭で乾杯し、各自の近況報告、愛唱歌合唱、華麗なダンスの模範演技などで盛り上がり一層の親睦を深めることができました。

翌25日、朝食後にすぐに熊谷氏が所要で出発し、また久保氏、前田氏とも別れて11名で厳島神社を参拝。周辺を散策して宮島を後にしました。最後まで行動を共にした8人は広島駅南口近くのお好み広場で名物のお好み焼きを食べて解散し帰宅の途へ。

今回は天候に恵まれ瀬戸内の大自然を満喫できました。また武富氏の企画と河内氏の綿密な計画に改めて感謝しています。40数年前にタイムスリップしたあつという間の同期会でした。さて、来年は関東での開催、箱根の金時山に決定しました。千葉在住の藤下氏の参加を期して全員一致で決まったのですが、その10日後、藤下氏の訃報に接しました。誠に残念。

(2) 【卒部以来の再会も】

昭和47年卒 広島県 真田義子 山口支部 池富士清

期日・場所 6月1日(土)～2日(日) 山口市湯田温泉、鳳翩山
実施内容 1日目：山本家訪問 懇親会(湯田温泉「菜のはな」) 2日目：東鳳翩山登山
参加者 三浦静止(工)、前田邦男(工)、野村(内田)英昭(文理)、中森晴夫(文理)
田中秀平(農)、高津俊雄(工)、杉原 一(工)、真田義子(教)、合志栄一(経)、池富士清(農)

〔1日目〕

昨年6月、思いかけない訃報・前OB会長山本充二さん逝去の知らせだった。信じ難い思いの中、山口市仁保の斎場での同期の再会は24年前、山本さんが呼びかけて実施した湯田温泉での同期会(本部のみ)を思い出させた。

葬儀後、来年は是非同期会をとの声もあり、彼の一周忌前が近づいた6月1日に、久しぶりの同期会が実現し、早い梅雨入りで、小雨の降り始めた湯田温泉に10名が集まった。

この案内の中で、今年1月に篠原益子(旧姓南洲)さんが亡くなられていたとの知らせが届き、続けてショックを受けた。二人とも同期の中心的存在だっただけに、拠り所を失い悲しみで言葉も出ないが、

彼らが付けた道を続けていきたいと思う。お二人のご冥福をお祈りするばかりです。

次に10名は山本家を訪れ、仏壇に手を合わせ、奥様とともに、在りし日の彼の活躍の四方山話で、話は尽きることなく長居をしてしまった。



山本家にて奥様〔左端〕と



輪の中に笑顔の彼がいるようで、皆の心の中に生き続けていることを実感した。懇親会は、湯田温泉の和風居酒屋「菜のはな」のコース料理でリッチな気分になりながら、当時のワングルの様子や亡き友の思い出に話は弾み、旧交を暖めることが出来た。

年相応に、大食漢や酒豪は影を潜め、年月を感じながらも気分は学生時代に帰り、幸せ

な時が流れていった。

今回は日帰り参加だったので、降り続く雨の中、翌日の鳳翩登山組他を残し、一足先に会場を後にした。

(真田)

〔2日目〕

昨日からの雨が朝食時には霧雨程度となり、風もないことから、登山予定の三浦、高津両氏と敢行を決定し、ホテルを出発した(8:00)。

二ツ堂登山口手前の駐車場まで車で行き、雨具を着て傘をさし、40年以上前の錬成を思い出しながら歩き始めた。(8:30)

登山口からの急登は当時と変わらないが、雨にも関わらず「ぬかるみ」もなく、また、随所に天然木の階段がつけてあるなど、頂上まで、登山道はとてもよく整備されていた。

おかげで、ほぼ標準コースタイムで頂上にたどり着くことができた(10:00)。

頂上は風が少し出て、横殴りの雨となり、当然とはいえ視界は悪く、他の登山者もいなかったため岩の上にカメラを置き、写真撮影後、早々に下山へと向きを変えた。



少し風が出て傘もさせない状態に



山頂手前の鞍部にて

たのが、今は、灌木に覆われ、頂上に立つ直前まで視界が開けないところだろうか。

笹やススキの尾根筋を歩く爽快感は味わえなくなったが、頂上にたどり着くと、突然視界が360度開けるのは格別だろうと思われた。そして、天気の良い日に、また登ってみたいという思いが強くなった。

(池富士)

(3)【49年卒業生OB会の報告】

昭和49年卒 長崎県 古賀義人



6月15、16日に49年卒のOB会を行いました。場所は山口、惣野旅館です。昔のままで残っています。当日は、迷いポータルが数匹いる程度でしたが、五月下旬から6月上旬にかけて多く飛び交っているそうです。昨年の10月のワングルOB会総会の際、出席した49年卒の中でOB会をやろうという意見が盛り上がりました。

他の卒業年次の方からも、一緒にやろうという話をいただきましたが、幹事をおおせつかった私が、今回はまず49年卒を一堂に集めたい気持ちから49年卒だけでやらせていただきました。前原さんすみません。山本さんや南淵さんがなくなったことを聞くと我々の代もいつ誰が欠けるかわからないという思いがあり、とにかく全員集合を目指しました。皆さんの協力もあり、全員が再会でき山にも登れたことを感謝いたします。

惣野旅館は、80近くのおじいさんと妹さんで営業されているようですが、古いままで庭が広く、前を流れる一の坂川といい雰囲気を出しています。クーラーが無く窓を開け放していますが、不思議と蚊はいなくて快適でした。来年はクーラーを入れるとのことでしたが、このままでいいような気がしました。収容能力は、2階に3部屋ほどがあり、詰めて20人ぐらい泊まれるでしょうか。夕食は、手間が要らないようにすき焼きのみですが、朝は普通の旅館並みに豪華なものでした。

会はず、各人が今までの履歴を披露することから始まりました。水口君の提案によるもので、卒業から現在までを写真などを交えまとめたものを各自が発表しました。パワーポイントやワードを使い詳細に発表した人から、口頭のみで説明した人などがあり、時間も、20分ほどになった人

もいたり、5分程度で終わる人がいたり様々でした。内容が濃かったのは、皆さんの想像どおり、松永君、山村君、水口君の3氏であつたらうと思います。このとき発表したものを、水口君が今まとめていますので、見たい方は連絡されたらよいと思います。

その後は、山の歌で盛り上がりました。旅館の妹さんがなぜか山の歌に詳しく、一緒に盛り上がりました。静かな住宅街の中、開け放した窓からはよく響くので苦情が来ないか心配していましたが、こなかったところを見るとますますうまかつたのではないかと考えています。その後は部屋で1時ころまで飲んでいたように記憶している。

翌日は、前日の雨も上がり曇り勝ちながらよい天気恵まれ、体調が悪い

水口君、知人に会う約束がある山村君を除いた10人で東鳳翽山を目指しました。一番体に負担が少ないであろう二つ堂よりのコースを選択し、ダム湖の上流にあるスポーツ広場に駐車し上り始めました。2時間弱で頂上に着き西鳳翽山や十種ヶ峰などの周りの山を楽しんだあと下山しました。週に3回ほど走っている私でも結構ききましたので、ほかの人は翌々日くらいに痛みがきたのではないのでしょうか。このような会が、今後何年たっても開催できるように、皆さん健康に注意してがんばりましょう。



(4) 【拡大同期会だより】

昭和57年卒 山口支部 徳田宏子

5月3日に、昭和57年・58年3月卒の同期会が、山口の湯田で開かれました。今回は、57年卒の主将堀氏の奥さま（旧姓有馬さん）と山口女子大（現在山口県立大）WV部同期で58年卒のお二人も、ゲストとしていらっしゃいました。

3日の午後、3名で山大WV部のBOXに到着すると、先客は5名。そのうち、58年卒の主将泉谷氏と、いつも幹事を引き受けてくれる57年卒の長谷雄氏は、その日東鳳翽山に登ってきたとのことでした。1時間弱でピークに立ち、荷物も軽くこんなに余裕があるのは初めてだったとの感想。

BOXには、現役の奥原さんが来てくれたのですが、おじさんたちに取り囲まれて、ちょっとこ

わかったかも、とのことでした。

夕方からは、湯田の「お花茶屋」に、山大57年卒24名、58年卒8名、山女58年卒3名、総勢35名が集い、宴会が始まりました。

1人20秒の近況報告の中に、学生時代の姿を思い出し、その後の約30年を想像しつつ、爆笑も起こり、積もる話のきっかけになりました。

卒業後初めて参加の顔ぶれも。まだ、ほとんどの方は50代はじめて、いろいろと忙しい身でありながら、6年前の同期会より、山口へと足を運んでくださる方々は、いちだんと増えました。本当にうれしい限りです。

宴をしめくくる写真撮影の前には、今回のメイン行事の一つ、ひと足先に還暦をむかえる林田氏のお祝いがありました。

学生時代から、長老として親しまれている同期の彼は、我々がプレゼントした赤いちゃんちゃんこと帽子を、うれしそうに着て写真に納まってくださいました。

1次会の後、近くの店

で、ほとんどの方の参加で2次会で飲み話し、少数での3次会の後、お開きとなりました。

次回は、6年後、また山口で開催予定です。今回参加できた方も、できなかった方も、元気な顔でお会いしましょう。



7 ワンゲル今昔

(1)【第5回(1968年) チンコロ姐ちゃんの萩一宇部 80km 耐久徒歩レース】

昭和45年卒 東京支部 野村博

「萩一宇部 80km 耐久徒歩レース」は、工学部ワンゲル部員にとっては実に懐かしい言葉で、青春の思い出の1ページであるにも関わらず、レースの内容はまるで覚えていない。

45年という歳月が思い出をどこか遠くへ運び去ってしまった様な気がする。(我々世代は高齢者故、この記憶の曖昧さが“ボケ”かな…と一抹の不安を感じることもある。)

そんな私が寄稿する非礼さをまずお詫びして、筆を取ることにする。

「萩一宇部 80km 耐久徒歩レース」は、工学部ワンゲル部の年間活動行事として既に定着していて、市民参加の部活動を創設された我々先輩のご尽力には唯々頭が下がる思いである。

その伝統ある行事を我々が執り行った第5回耐久徒歩レースには、これまでになかったある出来事を取り入れることで特徴ある大会であったことを記憶している。

その一、画期的な大会ポスター

これまでは、部員考案の手作りポスターであったが、この年に限って、かの有名な富永一朗先生（注）デザインのチンコロ姐ちゃんモデルバージョンのポスターであった。

図柄はチンコロ姐ちゃんの歩く姿が描かれたユーモラスで、非常にインパクトのあるポスターであったことを記憶している。こういう画期的なことができたのも同期の小松公男君（故人）の伝により、彼が同郷の富永先生に依頼してくれたことが事の発端であり、彼の人脈の広さと尽力によるものであった。後にも先にも有名人がデザインしたポスターはこの1回限りであり、大変貴重な体験であったことを今更ながら驚いている。只、残念ながら、この記念すべきポスターを誰ひとりとして思い出のひと品として持ち合わせている者がいないことである。（実に残念！）

（注）富永一朗：週刊漫画サンデー連載「チンコロ姐ちゃん」の著者

その二、主催者

伝統的に工学部ワングル部主催の行事であったが、本大会は本部ワングル部と協力して共同開催したように記憶している。（共同主催か協賛かは定かでない。）

萩、午前0時スタート。一路宇部(常盤台)へ。暗闇の中を集団で歩き出すわけだから事故に対する細心の注意を払い、参加者の車道側に工学部と本部の部員を配置し、懐中電灯片手に光の帯を作りながら、暗闇の中を歩いた記憶がある。また、夜明けの朝食弁当配布には、山岡鉄舟君（故人）提供の車で短時間の中で手際よく分配することができたし、レース中の巡回パトロールや途中棄権者を搬送することもできたし、様々な面で本部の協力が大変助けられた大会であった。お陰で途中棄権者数名を除いて、大半の参加者が常盤台にゴールして宇部短 W.V. が作ったぜんざいを食べながら無事に大会を終えることができたことで、責任を全う出来た使命感と達成感に浸ったような気がする。また同時に山大ワングルの一体感を実感できたし、その後の部活動においても何かと工学部と本部が協調しながら活動できるきっかけ作りの大会でもあった。

最後に、ワングルを通じて友人を得たことに感謝している。ワングル仲間には格別な思いがあり、自分の青春そのものであり、私にとっては貴重な財産である。

お陰さまで、現在も45卒ワングル同期生は毎年同期会を開催し旧交を温めあっている。

今年は広島県宮島で開催し同期13名(プラスゲスト1名)で盛大に開催できたことを報告しておく。（このような機会を持つことができるのも世話役の武富敏夫君のお陰で、彼には同期一同全員で大感謝している次第である。）

8 故藤下勝弘君を偲んで

昭和45年卒 同期世話人武富敏夫

私たち同期は、OB会の加入の有無を問わず、平成22年から毎年同期会を開催することにしています。昨年、彼へ電話で参加の可否を催告して、お話したのが最後でした。今年も3月上旬にメールで同期会の案内を出したところ、思いがけなくすぐ返事があり、昨年の写真を送付して欲しいとの依頼がありました。この時点でガンであることが判明していたのかも知れません。

藤下君との最初の出会いは、隠岐の島での1年合宿でした。彼がPLでこの頃から既にリーダーとしての風格を備えていました。それ以来の付き合いで、ある時、私と山信さん（山本信義）が彼

の下宿に行き帰りを待っていましたが、なかなか帰って来ないのであきらめて帰りました。その後聞いたところ、彼は私の下宿で私の帰りを待っていたとのこと。現在のように携帯電話がある時代では考えられないことです。

その後の再会は、私が平成5年に東京へ転勤になってからであり、彼の事務所へ訪問したり、仕事に関係する資料をもらったり、時には一緒にお酒を飲んだりしました。お酒を飲んだ時は、東西線と総武緩行線を乗りついで一緒に帰ったことを思い出します。

来年の同期会は、彼が参加しやすいよう東京での開催を、5月末に決定したばかりですが、彼の再会も叶わないことになりました。3月に胃が痛いと言われ病院で診察を受け、4月に末期の胃がんと診断され、6月3日急逝しました。同期世話人として、同期OB会員に呼び掛け、彼を偲んで思い出などを綴っていただきました。

昭和45年卒 東京支部 熊谷忠輝

60代も半ばを過ぎると残念ながら毎年知人の訃報が相次ぐ。

2013年6月3日、大学時代の山の仲間であった藤下勝弘君が66歳で逝去した。胃がんであったという。若くして税理士事務所を設立し、なかなかの頑張り屋であった。

学生時代から静かな物腰ながら内に熱を感じさせる、いざというとき頼りになる人であった。彼がチームにいるだけで安心感を覚えた。この安心感は何であろうかと思うに、いつも率先して重い荷を担ぐからだと思ひ至る。

通夜の際、日本橋の事務所仲間や仕事関連の多数の参列者がお別れをする姿を拝見するにつけ、税理士事務所にあっても苦勞を苦勞としないタフさがあったのではないかとその仕事ぶりがかうかえた。5人の子宝に恵まれ、地域でも登山や野球を楽しみ活躍したと聞いた。多分人生を楽しんでいたことだろう。

さてこの機会に YUWV45年卒の仲間についても記さねばならない。この同期は現在でも仲良く毎年5月下旬の週末に同期山行を行っている。最初は山口の東鳳翩（ほうべん）山と湯田温泉、次が久住山と赤川温泉（台風のため竹田観光に変更）、昨年は神戸六甲山と有馬温泉、今年は広島宮島の弥山と宮島温泉であった。皆元気であることの確認である。

現在OB会員は13名（石津協藏君、大谷（右田）久美子さん、乙咩敏臣君、久保博務君、黒小（山手）由紀子さん、里村州久君、銭広幸壮君、武富（伊藤）敏夫君、中洲泰治君、野村博君、箱田（長谷）貴代子さん、藤原正明君、熊谷忠輝）である。

この他に同期では河内建君、戸村清志君、安田善信君、妹尾（内田）清子さん、増田（下松）民子さん、比嘉敏子さん、山村益士君、岩崎光男君、山根康弘君、村上茂君の11人がいる。既に山岡鉄舟君、小松公男君、山田興二君、そして藤下勝弘君が鬼籍に入った。

この45年を束ねているのが鳳翩（ほうべん）会の現会長武富敏夫君である。永久幹事役となって会をずっと引き受けてくれている。

藤下勝弘君も参加した昭和41年・1年次「奥秩父」夏合宿Dパーティの記録（「あるきの記」3号に掲載）を抜粋して彼の冥福を祈ることとする。

<Dパーティ行動記録（抜粋）>（記録：山本悦子）

坂口 PL・山本（悦子） SL・1年生7人、上級生3人総勢12人の混成パーティ

昭和41年7月19日曇

急行「はやとも」にて小郡出発。8時50分大阪着。

7月20日 6時41分横浜着。立川から氷川へ。

7月21日晴 4時起床。富士山を見る。武州雲取小屋着（15時53分）。

7月22日曇

3時30分起床。5時48分発、上り坂を終わると雲取山頂だ。6時45分山頂を後にしても
のすごい下り坂を25分下った。細い道で木の橋などがあったが、右田さん、転倒にびっくり
する。13時35分将監峠を通過。小雨が降ったりやんだりする。15時55分休憩の後、気
象係と坂口さんを残して早いピッチで笠取小屋に急ぐ。16時40分着。あまり良いテントサ
イトではないがしかたがない。雨が強く降り出した。山田さん、目のあたりを虫に刺されたの
か、腫れている。21時就寝。

7月23日曇 4時起床。3ピッチで雁坂小屋着。

7月24日晴 2時30分起床。

雁坂峠を経て富士山がくっきりと浮かぶ中を歩く

7月25日晴 3時起床。4時22分甲武信岳着。

南アルプス・中央アルプス・富士山を臨み日の出を見る。

7月26日晴 3時起床。2ピッチで金峯山頂。ハヶ岳をバックに記念写真。富士見平小屋12
時15分着。

7月27日

4時30分起床。6時13分、荷物を整理した後、瑞牆（みずがき）山に向かう。途中「光ご
け」を見つける。この辺りは奇岩がそそり立っている。岩の間をぬうようにして登ると、瑞牆
山頂に着く。山頂の眺めは素晴らしかった。8時23分引き返し、荷物をとって下る。だらだ
らした道が続く。金山のあたりでメツチェンパーティに遭う。みんなハッスルする。川に沿っ
た道を早いピッチで歩く。スピードも出せば出るものだと感心する。12時38分ラジウム温
泉着。河原にテントを張る。洗濯をしたりしてくつろぐ。17時30分食事の後、反省会を開
く。待望のお風呂に入る。女子は川崎のおばさんから水晶を貰ってごきげん。20時30分就
寝。

7月28日晴 4時起床。小諸経由にて5時過ぎ本部に着く（信州大室農場）

（cf：山本悦子・山田興二・藤下勝弘の三氏は故人）

昭和45年卒 東京支部 大谷久美子

藤下さんとは住まいが千葉県内の同方向で、OB会や同期会の帰り道によくお話をしました。学
生時代はほとんどお話をしたことがなかったと思います。とてもおとなしい方だった。それに私が
非常勤講師をしていた高校で三女の方を教えることがありました。本当に珍しい縁だったと思いま
す。ご家族の中で何でも答えてもらえるお父さんだったと想像していました。早すぎますね。

昭和45年卒 東京支部 乙咩敏臣

朴訥として童顔の貴兄となぜか相通じるところがあって気が合っていました。卒業して上京してからはお互い忙しく滅多に会うことも叶いませんでしたが、年賀状だけは欠かさずやり取りしていてさほど遠い存在には思えませんでした。そして子供の数が貴兄は確か5人、小生は4人と多いのも共通していて話がはずんだものです。

今年の同期会は宮島で弥山に登りましたが、貴兄は本物の須弥山に登ってきっと世界中を見下ろしていることと思います。ご冥福をお祈りします。

昭和45年卒 山口支部 久保博務

藤下さんとは、1年と3年の夏合宿、フリーワンでも何回か山歩きをしました。山口駅付近に下宿しており、よく出入りをしていました。酒を飲んだときなどひょうきんなことを言い出すこともよくありましたが、どちらかと言うと寡黙で意思が強く、自分の思いを大切にしていたように思います。平成20年頃東京でのワングルの会合で会ったのが最後でした。

昭和45年卒 大分県 中洲泰治

藤下君の死は本当に残念無念の思いが我々だけではなく、本人が一番だったと思います。ワングル時代は装備係として言葉少なく黙々と真面目に準備してくれた姿が思い出されます。この真面目な我慢強い性格が病魔に蝕まれていく身体の異常に対する手遅れに繋がったかと思うと、本当に悔しいです。

9 現役活動報告

(1) 執行部近況報告

栗林道（経済3年）

こんにちは、現在主将を務めさせていただいている経済学部・経済学科3年生の栗林道と申します。部活の近況報告をさせていただきます。

まず、今年は1年生が8名(うち工学部2名)入部してくれました。ここ数年と同様に多くの新入部員を迎え、さらに大所帯となりました。また、2年生は初めての後輩を持ち、それぞれ先輩として自覚を持って行動するようになり、頼もしい限りです。

しかし、部員数の増加にともない、全体をまとめることが難しくなるのも事実です。今後の活動の方針などはなかなか共有しづらいものがあります。そこで、今年度は話し合いの機会を昨年度よりも多く設けることで、全体での情報の共有・今後の活動方針の共有を図ろうと活動しています。

また、今年度より、今まで縁のなかった水産大学校ワンダーフォーゲル部と親交を持つようになりました。県内合同ワンデリングなど、県内のワンダーフォーゲル部での合同行事にもぜひ参加してもらいたいと思います。

現在、普段のトレーニングや講習会は2年生が主体となって行っています。最近では1年生もトレーニングに慣れて体力をつけてきており、上回生を脅かす存在になりつつあります。このように互いに刺激し合いながら活動できる環境はとても充実していると思います。

また、大学から登山を始めた者がほとんどのため全体的に経験が浅いので、最近では夏合宿に向け

てトレーニングだけではなく、積極的に山に登りに行くなどしています。
短いようですが、以上で近況報告とさせていただきます。

＜平成25年度本学執行部＞

役職	氏名	学部	学年
主将	栗林 道	経済	3年
副将	奥原 芽衣	人文	3年
主務	小田 優人	経済	3年
	小林 遼大	人文	2年
会計	濱田 未来	教育	2年
渉外	岡本 佳菜	理	2年

(2) 春合宿結果報告

栗林道（経済3年）

今回、春合宿でPLをつとめさせていただきました、経済学部・経済学科3年の栗林道です。昨年度の春合宿は、3月12日から16日にかけて、屋久島で行いました。悪天候のため1日行程が延期になりましたが、特に大きな問題もなく終えることができました。

・AP

当日は先輩方や山口県立大学ワンダーフォーゲル部の方々に差し入れに来ていただきました。盛大なお見送りに感謝します。まずは鹿児島島の坂之上駅までJRを乗り継いで行き、タクシーで谷山港まで行きました。谷山港からはフェリーはいびすかすに乗船し、その日はフェリーで一夜を明かしました。

■1日目

朝方にフェリーが宮之浦港に到着し、合宿を開始しました。この日は白谷雲水峡に行く予定でしたが、天候が思わしくなかったためやむなく宮之浦周辺散策に切り替えました。散策後、宮之浦のオーシャンビューキャンプ場にテントを張り、その日は行程を終了しました。

■2日目

この日は白谷雲水峡に向かいました。行きのバスでは、自分たちと似たようなザックや恰好の方が多く、屋久島の人気を再確認しました。実際に白谷雲水峡に行き、部員たちは普段触れることのない大自然を感じ、存分に楽しんでいました。

■3日目

朝早くから行動を開始し、安房の番屋峯キャンプ場に拠点を移しました。その後、千尋の滝や中間のフルーツガーデンを回りました。朝早くから行動していたため部員たちはお疲れのようで、帰りのバスではみんな眠っていました。

■4日目

ヤクスギランドでは思っていたよりも道がしっかり舗装されており、観光地としての屋久島を実感しました。また、その後は紀元杉にも向かい、その存在感に圧倒されました。

■5日目

最終日はフェリーの時間までパーティごとに散策を行い、各々悔いを残さないように屋久島を満

喫しました。そして、昼にフェリーで屋久島を出発し、鹿児島に着いて合宿終了となりました。

・まとめとして

まずは、今回の春合宿では大きな事故や問題が起こることなく、無事に終わることができてよかったと思います。夏合宿ではエスケープすることになってしまった部員も多かった中、こうして合宿を無事に終えるという経験が今後生きてくるのではないかと感じます。特に 1 年生(現 2 年生)は後輩も入り先輩になるので、今回の経験を次に活かしてもらいたいと思います。

(3) 平成25年度山口大学ワンダーフォーゲル部活動計画表

栗林道(経済3年)

【新入生歓迎フェスティバル】

今年の新入生歓迎フェスティバルは4月7日に行われました。今年は生憎の雨模様だったため新入生が来てくれるか心配でしたが、そんな心配はよそにたくさんの新入生が来てくれました。十分にワンダーフォーゲル部の名前を広めることができたと思います。

【県内合同ワンデリング】

今年の中四合ワンは5月3日～5日に秋吉台の家族旅行村にて、山口県立大学の主催によって行われました。1年生も2名参加し、レクレーションや散策を通して親睦を深め、ワンゲルの雰囲気になれることができていました。現役の部員同士もさらに親睦を深めることができ、とても実りのある県内合ワんになりました。

【海合宿】

今年8月17日～18日に、萩にあるOBの方所有のハウスをお借りして海合宿を行わせていただく予定です。本学生に加えて工学部生も参加するので大規模なものになります。普段は山での活動が多いので、たまに来る海を各々が存分に楽しめます。

【夏合宿】

今年の夏合宿も、縦走パーティとピストンパーティに分かれて行きます。事故など起きないように、現在準備中です。詳しくは「夏合宿コース紹介」をご覧ください

【中国四国合同ワンデリング】

今年の中四合ワンは島根大学が主催で、10月6日～8日に行われます。場所は鳥取県の大山を拠点として行われます。A・B・Cの3つのブロックに分かれ、それぞれの体力に見合った行程を行います。

【追い出しコンパ】

今年度の追い出しコンパでは4人の先輩を送り出させていただきます。どの方も自分たちが1年生の時からお世話になっているので、感謝の気持ちを追いコンで伝えられるようにしたいと考えています。

【春合宿】

今年度の春合宿ですが、ここ2、3年と同様に南の島でのトレッキングもいいのかと考えています。または趣向を変えて、九重連山などでの登山もいいのかと思います。夏合宿が終わり次第、部員が集まって最終的な行先を決めようと思います。

(4) 夏合宿コース紹介

A・B-Party 責任者 古宮山健太郎

この度、夏合宿で A・B-Party の責任者兼 A-Party の PL を務めさせていただきます工学部、機械工学科、2 回生の古宮山健太郎です。

A・B-Party は柵池自然園から扇沢までの縦走で 5 泊 6 日を予定しています。

■ 1 日目

夜行バスとゴンドラ、ロープウェイで柵池自然園に到着後、白馬大池山荘を目指します。柵池自然園を出発するとすぐに急坂が続き高層湿原の天狗原に着きます。風吹大池方面の分岐を見送り岩の急坂を直登して乗鞍岳の頂稜にたどり着いた後、白馬大池の池畔にある白馬大池山荘でテント泊を行います。

■ 2 日目

この日は白馬岳、杓子岳、鑓ヶ岳を登り天狗山荘を目指します。白馬大池を出発して小蓮華山から白馬岳では落石が多発しているため注意して進みます。鑓温泉分岐を越えると天狗山荘でテント泊を行います。

■ 3 日目

この日は唐松岳を登り唐松岳頂上山荘を目指します。不帰キレットでは鎖や梯子がかかる岩場に取り付きます。ホールドが多いので三点支持を確保しながら岩場をトラバースしていきます。唐松岳で景色を楽しんだ後、唐松岳頂上山荘でテント泊を行います。

■ 4 日目

この日は唐松岳頂上山荘から出発し、大黒岳を経て、日本百名山である五竜岳に登ります。山荘を出発すると、しばらく険しい岩稜が続くので慎重に行動します。大黒岳を過ぎると最低鞍部に至り、周辺は歩きやすいハイマツ帯となっています。五竜山荘を通過すると、岩尾根に変化し傾斜がきつくなります。ここを登りきると五竜岳山頂です。頂上は 360 度の大パノラマが広がり、唐松岳や白馬岳、剣・立山連峰、鹿島槍ヶ岳などが眺望できます。眺めを堪能したら、この日の宿泊地であるキレット小屋を目指します。

■ 5 日目

この日はキレット小屋から出発し、八峰キレットを経て、後立山連峰の盟主、また日本百名山でもある鹿島槍ヶ岳に登ります。八峰キレットは、ハシゴやクサリが連続する場所や鋭い岩壁があるため、気を引き締めて慎重に行動します。八峰キレットを通過し、岩混じりのハイマツの急斜面をジグザグに登っていくと、鹿島槍ヶ岳北峰の分岐に出ます。分岐から北峰を往復し、吊尾根を進んで急斜面を登ると、鹿島槍ヶ岳南峰です。広々とした山頂は大パノラマで、歩いてきた五竜岳から鹿島槍ヶ岳北峰までの険しい主稜を眺めることが出来ます。絶景を楽しんだ後は布引岳へ向かい、チングルマのお花畑を通過したら冷池山荘に到着します。この日はここでテント泊を行います。

C・D-Party 責任者 岡本佳菜

極暑の候、皆様にはいっそうご活躍のこととお慶び申し上げます。この度、夏合宿で C・D-Party の責任者兼 A-Party の PL を務めさせていただきます理学部、生物化学科、2 回生の岡本佳菜です。

さて、今年の夏合宿なのですが私達 C・D-Party は富山県にある立山と奥大日岳に登る予定を立

てました。一昨年先輩方が行かれており、とても景色が良く、雷鳥を見ることもでき、なんといっても標高 2500m からみる星空がきれいだったと聞き、上回のメンバー一同で今年はここに行こうと決めました。俗世間を遠く離れた雲上の楽園で、勉強やアルバイトといったありふれた日常では感じることもできない、人知を超えた自然の神秘に出逢ったときの素直な喜びと驚きを感じ、昔も今も変わらないこの感動をかつての先輩方が感じられたように今回感じることできたらなと思います。

今回の夏合宿の日程を簡単にですが報告させていただきます。合宿期間は予備日を入れて 8/31 ~ 9/7 を予定しています。

■ 1 日目

富山駅から室堂のバスターミナルまで直行便のバスで向かいます。室堂のバスターミナルからは歩いて雷鳥沢キャンプ場を目指します。このキャンプ場が今回の合宿のベースキャンプ地となります。キャンプ場に着きテントを張ると、1 日目の行程は終了となります。

■ 2 日目

2 日目は立山に登ります。途中 3015m のピークから約 1500m の眼下に黒四ダムが光輝いて見える立山最高峰の大汝山を通過し、別山乗越へ下り雷鳥沢へ戻ります。

■ 3 日目

3 日目は奥大日岳に登ります。奥大日岳へ向かう途中の登山道は剣岳の展望が良く、休憩をはさみ剣岳を眺めながら奥大日岳に向かいます。

■ 4 日目

キャンプ場からバスターミナルまで下り、高原バスやケーブルカー、電車を利用して富山駅まで帰ります。ここで解散となり、各自アフターとなります。

メンバー一同協力して、怪我の無いよう夏合宿を楽しもうと思います。以上、簡単ではありますが、C・D-Party 夏合宿の予定報告とさせていただきます。

10 編集後記

今年度の事務局長、そして今回のOB通信を編集させていただきました理学部4回生の浦島遼平と申します。微力ながら、一年間事務局の仕事を務めさせていただきます。

さて、私が入部した4年前に比べて現在のワングルは規模が大きくなってきています。今年も去年ほどではないですが8名の新入生が入部し、ますますワングルの活動が賑やかになっていくと思われれます。実際、研究の合間をぬって時々部活にも顔を出すのですが、夏合宿に向けて必死にトレーニングをしている姿を見て正直圧倒されました。張り切り過ぎて、怪我などをしないかどうかが気掛かりであります…。私も二年の時に練習中に腰を痛めて合宿もエスケープするという事態に陥ってしまったので、後輩たちにはその轍を踏まないようしてもらいたいものです。ひやひや…。

私はといえば、卒業研究で再び山に行く機会が多くなり、引退して半年も経っていないのに現役だった頃が懐かしく思えます。やはり登山というものは素晴らしいものです。後輩やOBの方の登山のお話を聞いていると、自分も山への思いが掻き立てられます。調査以外でも山に登れたらいいのですが、研究しないといけないのでそこは我慢ですね。引退こそしたものの、いずれはまた現役の部員たちとまた登山したいものです。そして機会があればOBの方々とも交流を深め、歴史ある山大ワングルを今後ますます盛り上げていけたらと思っております。

最後になりますが、今回OB通信の原稿を寄稿してくださった皆様、そして編集に携わった皆様に深く感謝申し上げます。